

「 ヘルプステーションガルは、みんなで一緒に支えています。 」

『 ヘルプステーションガルはこんなところです 』

「 けあ処ガル 」にホームヘルパー派遣事業として、私の所属しているヘルプステーションガルがあります。

私たちの今の全職員数は、
正規職員 7人(男性 4人、女性 3人)、
嘱託職員 5人(男性 2人、女性 3人)

ヘルプステーションガルでは
正規職員 6人(男性 3人、女性 3人)、
嘱託職員 3人(男性 2人、女性 1人)
で

ヘルパーの資格を持っているバイトさんは9人、
その他のバイトさんは 13人ぐらいの方が来てくれます。

ヘルプの依頼は親御さんからのFAXや、電話で受け付けます。月末に近づいてくると、だんだん増えてきます。だいたいいったん保留にして、多く依頼がかぶっている日など全体を見ながら、返事をしていきます。その内容は「プールに行きたい。」「どこか外食してほしい」「カラオケに行つてほしい」「入浴してほしい」「親御さんの介護負担軽減」ただ見守ってくれるだけでいい」……さまざまです。そのような依頼を整理していきます。

でも、依頼が多い日にどのようにして、断るか、とても難しいです。まずどのような思いで、依頼してきてくれたのか？ 定期的になれたように依頼してくる人や、月に1回だけという人もいます。不定期にばらばらと依頼してくる人、さまざまです。「家族の誰かが入院してしまって……」「どうしても用事がある……」「しんどくて……」「他がだめで、ガルさんだと受けてもらえるかな？」とか、そこには親御さんの色々な思いが存在しています。わからない部分もあります。本当に必要？と、考えながら、返事を

します。

「この日は多いから、もし違う日にしてもらっても大丈夫なら受けようか」
「時間をずらしたらいけるかも……」
「月に一回の利用だったら、どうにかして受けてあげたい」
「他事業所で調整してもらうことが可能か？」
「ぼあん(あとで説明)の方にもうけてもらえないか聞いてみよう」
……など、考えながら、大体受けます。

ヘルプステーションガルは昔から「なんとか受けていこう」という考えのもと、今までできました。

前々から、きちんと依頼してくれる人もいます。

明日の依頼を前日の夜にFAXしてくる人もいます。

当日に急に依頼が入るときもあります。そのような中、親御さんのニーズが存在する、受けてほしいという思いにどうにかして応えようとしてきています。

依頼の多い日には職員の数にも限界があるので、その日休みの職員を出勤にして、違う日を休みにしたり、公休出勤もしたり……と勤務変更をしたり、

バイトさんにどうにか来てもらえないか声をかけたり……色々なところへお願いをします。

それが「他がだめだったけど、ガルさんだったら受けてくれるかな?」と思って……という親御さんとの関係になっているのかなと思います。

しかし、どこまで依頼を受けて、断つてということは本当に難しく、職員の体制の部分も考えなければいけないので、職員の負担にならないようにも考えないといけません。うーん、と考えてやっとなりの予定ができるのに、ふと、キャンセルになったり……そんな毎日が続いています。

ある一日の職員の流れ・・・

<平日：女性ヘルパー>

- 7時40分 出勤
- 7時45分 Yさん自宅へ訪問
(保育園へ送迎)
- 8時 保育園到着
- 8時10分 Sくん自宅訪問
- 8時25分 Sくんをバス停へ。
バスに乗ってもらう。
- 8時40分 Nさん自宅にて朝の準備
- 9時10分 Nさんを親御さんの車に
乗せて終了
- 休憩
- 14時45分 出勤
- 15時 学校へFさんお迎え
(おやつ等かって部屋へ)
- 15時40分 Fさんを他職員に引き継ぐ
- 16時 Oさんの自宅での入浴
(40分間ほど)
- 17時 事務所に帰ってきて、
Tさんのケア
- 17時30分 Tさんを自宅へ送る
- 18時 Tさんの自宅へ到着
- 18時30分 Nさんの自宅での入浴
- 19時すぎ 事務所へ帰ってくる。
記録等、事務をして終了。

<休日：男性ヘルパー>

- 8時10分 出勤
- 8時30分 Iくん自宅迎え
(乗せて事務所に帰る)
- 9時10分 他の職員にIくん引き継ぐ
- 9時30分 Tくん自宅迎え
(プールに入る)
- 12時 Tくん自宅へ
- 12時30分 事務所に帰ってきて、事務
所にいるKくんといっしょ
にプールへ。
- 15時45分 Kくんを他の職員に引き継
いで、Fくんを自宅へ送る
- 16時 Fくん自宅へ送る
- 16時15分 事務所に帰ってきて、
Mくんのケアに入る
- 18時 Mくんを自宅へ送る
- 18時10分 Aくんをショートへ
迎えに行く
- 18時40分 Aくん自宅へ送る
- 19時過ぎ 事務所へ帰ってくる。
記録等、事務をして終了。

『 各それぞれのケースから考えてみる 』

<重症心身障害がある M さんの自立へむけて>

< M さん >

生年月日 昭和57年 9月 22日(現在
25歳) 脳性まひ

本人は言葉で会話することは出来ませんが、目で訴えたり、首を振ったり、こちらが「あ、か、さ、た、な・・・」とひとつひとつ言葉を聞いていくことで、話が出来る方です。メールもできます。

ヘルプを使うまでの経緯

もともと、通所施設に通っておられました。このころから、ヘルプも使い、土日に余暇として、5~7時間ぐらいの利用がありました。そこでは、車に乗ってアルプラへ服やCDを見に行ったり、ランチに行ったり、コンサートに行ったり。在宅に戻って模様替えをしたり、お話をしたり。本人のしたいことにそって余暇を過ごしていました。

ところが、新しく入所施設がオープンすることを知り、本人の中で、両親に対して介護の負担になっている、自立したい、ご家族にも入所施設へという思いがありました。でも、今通っている通所施設は自分の思いが表現できる場所だし、相談も出来るところだし、離れたくない、という葛藤が生まれます。悩んだ末、通所施設を卒業し、入所施設に入所することを決めます。

入所したものの、まだ出来てまもなく、一日の流れ、取り組みや職員体制もきちんと整理されておらず、十分に自分の思いも伝わらない・・・ということもあり、本当にやっていけるのか?など、悩んでしまいます。

ケース会議を重ねた結果、入所しているまま、通所にも通い、一週間に一度帰ったとき、ヘルプを利用するという形をとり、がんばることになりました。

本人も入所が少しずつなれてきて、通所や、ヘルプでも楽しみつつがんばろうとしているところに・・・

脳酸素濃度が落ちていたとのことで、入院、そして、この5月に気管切開。吸引が必要になりました。しかし、入所施設には看護師さんが、夜間いないため、昼間はよくても、夜中の吸引が出来ない・・・とのことで、一時、自宅へ。

在宅での生活が始まりました。日中ほぼ父が寄り添ってみることに。そこで、ガルから吸引の研修に行くことにな

り、Mさんが退院する前に病院で3日間の研修を受けることにより、私ともう一人の2人がMさんに限り、在宅での吸引ができるようになりました。

それから月、水は前に通っていた通所施設、火、木、金はヘルパーが在宅でのケアが始まりました。

○火、木 9時~13時(朝食+歯磨き、洗顔+余暇+昼食途中ぐらいまでのケア) 最近では親御さんの車と一緒に乗ってCDを見に行ったりしています。

○金 13時~14時30分(昼食終わりぐらいまでのケア) 他事業所が訪問入浴もしています。

本人が吸引してほしいときは教えてくれますが、やはりヘルパーだけでは吸引しきれないとき(ヘルパーが入れることの出来る以上のところでの吸引が必要なとき)は親御さんに頼んでいます。調子のいいときは、近くのお店にビデオを借りにいったり、CDを見に行ったりしていますが、ヘルパーと2人きりはまだ怖いようで、必ず親御さんと一緒にいきます。最近、再入院し、その結果、少し吸引が少なくなったようですが、完全になくなったわけではありません。

本人はきっと親に迷惑をかけているから、ヘルパーが色々できるようになれば、親御さんの負担軽減にもなるのではないかと、思っているのかな?と感ずることがあります。

お父さんはたくさんの吸引のとき、ヘルパーさんがいてくれるととても助かる、目もはなしても大丈夫だしとっておられますが・・・実際に吸引をしてもらうのは、親御さんのことが多く、ヘルパーが見ている状態が多いかなと思います。

「行けそうと思ったら、2人でいつか出かけてみよう?」とはいうものの、本人はやはり不安。首を振って笑っておられました。しばらくは2人で出るのは無理なのかな?と考えてしまいました。

ある日、お父さんが携帯電話を買ってこられました。いままで持ったことがなかったとのこと。その携帯電話は、いつかヘルパーと本人が2人きりで家に残ったり、外出したときに、いつでも連絡が取れるように・・・と買って来たとのことでした。その姿を見ると、外出できたらいいなという、思いがたくさん伝わってきましたが、やはり、吸引するときは不安です。医療行為をヘルパーが出

来るようになるよりも、訪問看護師の方と一緒に過ごすことが出来たりと訪問看護がもっと充実すればいいなと感じます。

【まとめ】

Mさんがずっと楽しく通っていた通所施設。しかし、葛藤の末の両親からの自立、通所施設からの卒業、そして入所。やっと決心して、入所したけど、なんだか悩んでしまいます。でもみんなで悩んだ結果、ヘルプを利用しながら、通所を利用しながら、がんばることに。と、思ったら、気管切開。

在宅へ。

Mさんにとって、たくさんの変化がたった1年間ほどの中でありました。とても負担が大きく、影響が大きいものです。

ヘルプはその人の変化に合わせて、対応して支援していきます。生活が変わってくると利用の仕方が変わったりと予定も変わることも多いですが、学校を卒業しても、通所している人でも、在宅での暮らしでの人も、その人と一緒に並びながら、その人の生活に合わせて、利用することが出来ます。

<お友だちを支えにお母さんから1歩離れたKさん>

<Kさん>

生年月日 平成 5年 7月 28日 (現在12歳) 知的障害

本人はとてもお母さんにべったりで、お母さんも何かと、Kさんを心配してしまう。ヘルパーと通院、プールと一緒に行ってほしい。なかなか新しい人になれることが難しくその場では仲良く過ごせても、帰ってから「もう行かない」ということもある。学校では大丈夫なのに……。ヘルパーさんと一対一だと、緊張するかもしれないので、お友達とかとも一緒に過ごせたら……。とのお母さんの思いでした。そして将来、学校を卒業した後につなげていけるように、少しでも他の人と関われるように、お母さんと離れる時間が出るようにと、ヘルプでのケアが始まりました。

まずは学校に車で迎えに行き、ドライブしながらゆっくり家に帰る。というところから始まり、リハビリの付き添い、妹さんや、弟さんと、自宅で一緒にすごす。最初は緊張気味で、「いつ帰る?」「ママは?」と心配した様子だったが、リハビリ付き添い時はリハの先生がいるせいか母がいなくてもヘルパーと一緒に過ごすことが出来るようになりました。

夏休み中プールに行くことも出来るようになりました。(妹さん、弟さん、お母さんが一緒ですが……。)座っているお母さんのことをがすごく気になっている、直接ヘルパーと関わろうとするというよりも、妹さんやお友達を通じて、顔色を見ながら関わってくるという感じでした。そして最後の方になると、「ママ……。 」とベソをかいてしまう。

ついには、リハビリ中や自宅での遊びのときでも、「ガルさんはいや……。 」といわ

れてしまいました。

どうしてだろう、自分の対応の仕方が悪かったのか、つっこんで接しすぎたのか……。リハビリの先生や、学校のみんなや、妹さんや、弟さんのお友達とは普通に接しているのに……

お母さんが言うには、お母さんはいるのに、なんでガルさんが来るの?自分がガルに預けられてしまう……。?

リハビリの先生はリハビリをしてくれる人。学校とはお友達がいる場所で、自分が勉強に行くところ。妹さん弟さんの友達は、単に遊びに来ている人。と、思っているのだろう。とのことでした。

Kさんは別のお友達と遊んで、ヘルパーとお母さんとの話す機会が増えました。どんな方法だとガルさんと一緒に過ごせるだろう……。?

「ガルさんは悪くないのに、本人が嫌なんて言って……。ほんとに申し訳ないです。」そんなことをよく耳にしていました。

そこで、一度ちゃんと、Kさんの先生とも話してみようということになりました。学校にKさんの様子を見に行ったりしながら、学校の先生、ヘルパー、ガルの相談員とで話し合った結果、Kさんと同じクラスの仲良しの友達がぼあん(放課後支援 ページで説明)でガルを利用する日に一緒に、来てみよう、そうすれば、一対一で、ガルのヘルパーと遊ぶというよりも、色々なお友達と遊ぶということになり、Kさんが楽しくすごせるのではないかとということになりました。

そのような話が進んでいる中、つい最近(11月10日のこと)にKさんが、仲の良いお友達のいる時に見学に来てくる

ことになりました。(ご家族も一緒でした。)こちらが行く予定だった公園に待ち合わせようということに。そして、ヘルパーも様子を見つつも、あまり介入しないように・・・。

私の顔を見るとちょっと緊張している様子でしたが、「あ、ガルさんだ！」とあいさつしてくれました。お友達を見つけると、笑顔で関わっていました。他の利用者さんもいたのですが、やはりまだみんなと一緒に遊ぶというよりも、仲のよいお友達にべったりと遊んでいるという感じでした。

そこで、一緒に車で部屋まで帰ってみる？と聞くと、それはまだ抵抗があったようでした。でも、お友達と、お弁当を見せてもらうという約束をしたようで、家族の車に乗ってあとから部屋まで来てくれました。最初はまわりも、たくさんの方がいるし部屋にも入れるかな・・・？と、みんなで心配していたのですが、すっと入って来られたようです。お弁当だけみて、かえるーと、帰って行ってしまいましたが、お友達と一緒に・・・の作戦はこ

れからいい方向へ進んで行ったらいいなあと感じます。

【まとめ】

今回のケースを考える上で、ガルのヘルパーと一対一では緊張してしまう、それでは次の手はどうだろう？そのようなことを考える上で、なんでだろう、とガルのヘルパー同士で話すことも大切ですが、違う場面での姿をしている人を交えて話すことで、また新しい考え方、情報交換ができるということが今更ながらに実感しました。

そして、次に色々な事業(図 1)のもと相談員、ヘルパー、ぼあんの連携部分の重要性があります。ヘルプが難しかったら、ぼあんでしてみよう、無理だったらまた考えてみよう、という考えが生まれてくるのも、色々な事業がつながっているからこそだと思います。

「ぼあんとは？」

4月から日中一時支援というものが始まり、そのなかに学校が終わってから、迎えに行っ、部屋でおやつを食べたり、部屋で過ごしたり、ちょっと公園にいったり・・・そうして、18時頃巡回でそれぞれ自宅まで送っていくという、放課後支援の「ぼあん」がはじまりました。ヘルプは基本的に一対一ですが、ぼあんでは一対一でなくてもよくて、数人の職員が、たくさんの方の利用者さんを見るという形になります。

また、ヘルプで働くにはヘルパー2級か、介護福祉士の資格が要りますが、ここでは、資格は必要ないので、色々なバイトさんにもお願いしています。

ヘルプで依頼が多いときで、ぼあんにバイトさんが多くいるときは、ぼあんにお願いしたり、逆に、その日のぼあんバイトさんが足りないときは、ヘルプでみたり・・・調整しています。ここでも連携のつながりが大切になっています。

<重症心身障害の姉弟と家族の暮らしを支える。>

< N兄弟 >

- N(姉)さん
平成 10年 6月 11日 (現在9歳)
- N(弟)くん
平成 12年 4月 25日 (現在7歳)

どちらも重度心身障害の方で、自分で歩くことは出来ません。でも、手を使ってはいろいろなところへいくことは出来ます。車椅子に乗れば、N(弟)くんは自分でこぐことも出来ます。「あっちいこ」「ぶーぶー」などの言葉もあります。2人ともお散歩、ドライブが大好き。とってもかわいいご兄弟です。

定期的には

- N(姉)さん
 - 木、土に18:30~19時に自宅にて入浴(ヘルパー2人で)
 - 木 ぼあん(放課後支援)

N(弟)くん

- 土 19時~19:30に自宅にて入浴
- 火 ぼあん(放課後支援)

上記が基本の形として、さらに土日にヘルプとして不定期に7時間程度の利用があります。

土日の余暇では主に、外の公園にお散歩に行ったり、プールに行ったり、外食したりして過ごしています。

自宅での入浴は、リフト等なく、お風呂場もあまり大きくないため、ヘルパー2人で介助する、N(姉)はちょっと大変です。2人で抱えないと重い方なので、お風呂に入るとき、出るときの持ち上げたときなど、滑ってしまわないように注意して入浴しています。髪の手を乾かして終了です。

やはり、重度の障害を持つ兄弟2人を抱えるご家族の負担は大きいものです。

少し前は腰痛に悩んでいるお母さんでした。でも、すべてヘルプに任せようとしているのではなく、ぼあんに任せようとしているのではなく、ほどよく手伝ってもらいながら、ひとりを預けているときに、もうひとりをリハビリや通院に連れて行ったりと、がんばって生活しておられるご家族です。学校ですごしてそれ以外はヘルプやぼあんを使いながら・・・
そのようにしながら、地域ですごすことができます。

『3人のケースを基に考えて』

ヘルプでの過ごしは今を安全に、楽しく過ごせるか？と考えがちになってしまうのですが、それだけではなく、その人の生活の一部になっていると考えなければいけないと実感しました。その人の生活を支えていくということを考える上で、「なんとか受けていこう」それはやはり一人では出来ません。ヘルプだけでも出来ません。けあ処ガル全体のつながりの中で始めて考えていけることです。

その日の体制を急に変えてでも、職員の出勤日を変えてでも受けていこうとするのは、3人のケースにすると、

Mさんの場合は、在宅での両親の介護負担軽減、本人の話し相手や楽しみをふやしてい

けるように。

Kさんの場合はガルのヘルパーを好きになってほしいというよりも、学校という場面以外でもお母さんから離れて、お友達と遊ぶ、たくさんの人と接することで、ガルってこんなところなんだ、ガルって楽しいのかな？これならおかあさんと離れてても大丈夫と、本人に楽しい場所となってほしい。

N兄弟の場合は、親御さんの負担軽減を支え、家族一緒にいつまでも楽しく自宅で過ごせるように。

そんな思いをもちながら、みんなで支援しています。

『私がヘルプで働き始めて・・・』

この仕事をはじめて3年目になりました。私は、最初と比べて何が成長したんだろうとよく考えます。

一番はじめに何より私が不安だったのは車の運転でした。色々な種類の車に乗れないといけない上に、利用者さんの家の道もわからず、時間も間に合うかわからずで、不安だったのが、嫌でも毎日乗っているせいか、少しは抜け道も徐々に覚えられて、ましになりました。

部屋を走り回って遊んでいる子、ぼーっと歩き回っている子、目を離したら、外に飛び出そうとする子、高いところが大好きな子・・・色々な利用者さんに出会いました。

気づいたら、自分も楽しんで利用者さんと一緒に遊んだり話したり出来る場面が増えました。

私をはじめてであったとき、失禁が多かったり、言うことを聞かなかったり、という利用者さんも、昔と比べるとましになって落ち着いてきていたり、逆にわがままになっていたり・・・と、利用者さんの成長がすごいなと思えるようになりました。

親御さんと話すのも、緊張しっぱなしだったのが、すこし慣れてきた気もします。

前より「どうかなるか・・・？」という気持ちが生まれることが多くなっているような気がします。

でもこの「慣れ」の気持ちと同時に私はおおざっぱになっていないか、心配です。

なんだか、毎日バタバタと利用者さんと過ごして、ぼーっと送迎に行って、帰ってきて、職員同士は終わる時間もばらばらなので、いつのまにやら顔を合わせず帰っていたり・・・私のケアはこれでいいのか？ゆっくり利用者さんを見れているか？何か変なところはないのか？でも、バタバタ過ぎていく・・・。そんな毎日と感ずることが多くなってきました。

一緒に働く職員の気持ち、体調にしてもお互いにちゃんと気づけているのか？きっとみんなもがんばってるし、がんばらなきゃと、感じているんだろうと思います。

私も実際感じるときもあります。しんどいつて自分だけかな？まゝこの程度ならなんと

かなるかな・・・と思うときもあります。ひとりが休むと、やはりその穴を埋めて、調整するのはとても大変です。みんなの一日の流れがいっぺんに変わってしまうこともあります。みんなそれがわかってるからこそ、言いづらいです。

ヘルプステーションガルは、ヘルプは基本的に一対一ですが、今は日中一時の利用者の人数も増えたり、ひとつの部屋を拠点に一緒に過ごしたりするので、ごちゃごちゃと、利用者さんも職員もその場に一緒にいることがあります。昼食時、おやつ時など特にそうです。

その中で、一応、今日はこの人と担当はあるものの、利用者さんの誰かが外の方に出て行こうとしたら、近くの職員が止め、食事介助のときも、なんとなく回りも見ながら一緒に食べたり、みんなで一緒に公園に行くときもそうです。

みんなで一緒に、お互いにカバーしあおうとして、過ごしています。

(それでも、見過ごしてしまって、怒られることも多いのですが・・・)

自然とそうなっているところ、それはほかのヘルプではなかなか体験できないことだろうし、ヘルプステーションガルだけのものだと思っています。

やっぱり、一人ひとりが重要、みんながいての職場なんだと、最近改めて感じています。

ちょっとしんどくても明るい職場、楽しい職場が私は好きです。だから悩みや本音が言えたりする職場の雰囲気にしていきたいです。

ヘルプステーションガルをただ依頼をなんでも受けてくれる場所、だけでなく、職員がみんな協力してがんばって親御さんのニーズにこたえたい、みんなの思いを大切にしたい。そこからどうにかして、受けたいとどうにかみんなでがんばってみる。

ガルらしい、ガルにしか出来ないものをこれからも大切にしていきたいと思います。